

農業技術 プリズム

県では温暖な気候を利用して施設桃栽培を行っています。近年は温暖化の影響で安定生産に必要な低温要求時間が不足する年があり、ハウスビニールの被覆時期の決定に苦慮しています。

そのような中、主要品種「日川白鳳」と比較して低温要求時間が少なく、温暖化に対応した品種「さくひめ」が農研機構により育成されています。そこで、無加温栽培における「さくひめ」の樹体と果実の特性について、本県への適応性を調査しました。

その結果、無加温栽培（2月上旬に保温開始）の「さくひめ」は、樹勢がやや強く、花芽の着生および花粉が多く、結実

は良好。果形は円形で玉ぞろいは良く、核割れ果の発生は少ない傾向でした。

また、「日川白鳳」に比べ、開花（3月上旬）が約13日、収

施設桃栽培

温暖化対応「さくひめ」 早生種として品質良好

穫期（6月上旬）が約4日早くなりました。さらに、果実重

（約210g）、糖度（約11度）ともに「日川白鳳」と同等であり、「さくひめ」が早生品

「さくひめ」および「日川白鳳」の生育相と果実品質（無加温栽培、2017～2018年平均）

品種	生育相					果実品質		
	保温開始 (月日)	開花		収穫		果実重 (g)	糖度 (Brix)	核割 (外観) (%)
		盛期 ² (月日)	日川白鳳との差 (日)	盛期 ³ (月日)	日川白鳳との差 (日)			
さくひめ	2/5	3/6	-13	6/1	-4	211.5	11.1	3.2
日川白鳳	2/5	3/19		6/5		213.4	11.5	13.3

²全体の8割が開花した日 ³全体の5割を収穫した日

種として果実重と果実品質が良好であることを明らかにしました。

（県農林技術開発センター果樹研究部門ピワ・落葉果樹研究室主任研究員 松本紀子）